

第61回記念 青雲塾 報告

<http://www.seiunkai.net/kouryu/seiunjuku/list.html>

青雲塾担当 松井繁幸 (第23期)

1. 日時 9月22日(土) 午後1時30分～4時50分
2. 場所 大阪大学中之島センター 多目的室607
3. 会費 2,500円(・レクチャー 1,000円 資料代その他経費を含む。・茶話会 1,500円)
4. 講師 次井義泰先生 (つぎい よしやす 青雲会 11期生 1963年卒業)
5. 演題 「俳句あれこれ」
6. 講師のプロフィール

1938年4月5日 大阪府泉北郡山瀧村大字内畑(現 岸和田市内畑)に生まれる
俳歴

- ・1995年 「苑」入会、泉田秋硯に師事
- ・2000年 「花曜」入会、鈴木六林男に師事
- ・2004年 第11回 西東三鬼賞受賞
- ・2014年 「花苑」創刊主宰

現代俳句協会会員

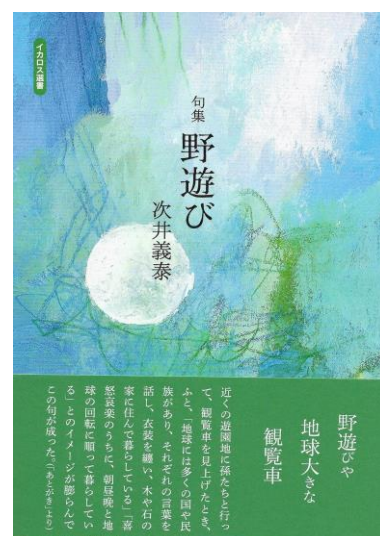
句集に『プラトンの国』(2006年)
『卑弥呼の空』(2012年)
『野遊び』(2018年)

7. 講師からひと言

表現することは、人が生きるうえで、衣食住と同じくらい必要なことである。

俳句は、有季(季語)定型(五七五)という制約の中で、人間と自然を深く広く感じて言葉で表現するものである。

このことを実作に即して話したい。



8. 青雲塾担当から

2015年10月、私が参加するNPO「大阪活性化推進総研(ODI)」の岸和田でのウォーキングで、青雲会の先輩からの紹介によりご挨拶させていただきました。今年始まったODIの俳句の会で、次井先輩のお名前が上がり、今回の講師をお願いした次第です。お便りで「これを機会にご縁が深まり、青雲会の中での俳句理解者・ファンが広まればと思います、お引き受けいたしました。」次井講師から早速「月刊『俳句界』2018年8月号を送ってくださいました。岸和田の同郷の高名な俳人『鈴木六林男全句集』を「私の一冊」で取り上げられています。最新の句集『野遊び』も。

当日は、次井講師が主宰される「花苑」の社中を含め、俳句の仲間が多数おいいただき、20名を超える参加者で賑わいました。また、女性が半数を占めるという、青雲塾としては異例の華やいだ雰囲気で行いました。

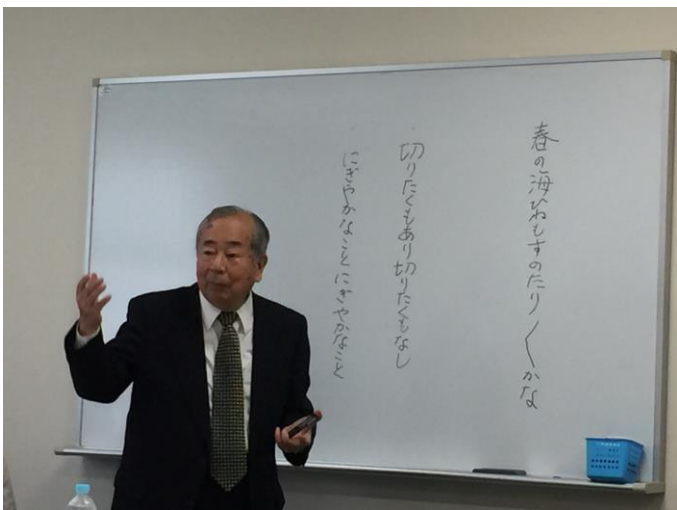
次井講師は、お人柄が伝わってくる詳しい自己紹介の後、俳諧の歴史から、俳句と川柳の違い、作句のコツや鑑賞方法にまで話が及びました。また、最後に、参加者全員に、配布資料の自句20句から6句(うち1句は特選)を選んでもらい、披講し、特選について鑑賞を述べる趣向がありました。特選が2点で、その他が1点です。それを順番に参加者に発表してもらい、得票を「正」の字で板書します。それぞれ、どの句を選んで投票するか、好みや感覚の違いが分かって、格別な楽しさを感じました。



①まずは次井講師のご挨拶から



②自己紹介から伝わってくるお人柄



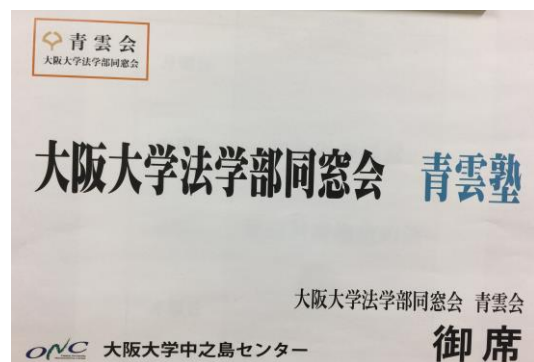
③蕪村の句を引いて俳句の心に迫る



④自作の20句から出席者が票を入れる



⑤茶話会でほっと一息



⑥案内板